



全国公立学校教頭会通信 第1号

# きずな

発行 令和5年10月10日

全国公立学校教頭会広報部

電話： 03-3436-4868

Mail： [zenkokyo@kyotokai.jp](mailto:zenkokyo@kyotokai.jp)

HP： <https://www.kyotokai.jp>

## 令和5年度 全国要請推進部長会 7月6日(木) 11:00~16:00 ハイブリット開催

全国要請推進部長会をハイブリット型で開催しました。各単位教頭会・副校長会の担当者が参加して、全公教総務・調査部からの発表と講演会並びに協議会を行いましたのでその概要を報告します。

### 【令和5年度 全国要請推進部長会次第】

- (1) 開会行事
  - ① 開会の言葉 . . . . . 総務・調査部
  - ② 会長あいさつ . . . . . 会長 吉原 勇
- (2) 全体会
  - ① 全公教調査結果報告 . . . . . 総務・調査部
  - ② 要請文の解説と課題 . . . . . 副会長  
～ 昼食休憩 ～
- (3) 講演会
  - ① 講師紹介 . . . . . 総務・調査部長
  - ② 講演 演題「教員不足を改善する令和のチーム学校体制の構築」  
講師 日本大学 文理学部 教授 末富 芳 氏
  - ③ 質疑応答 . . . . . 総務・調査部
  - ④ 謝辞 . . . . . 総務・調査部  
～ 休憩 ～
- (4) 分科会
  - ① グループ協議の進め方説明 . . . . . 総務・調査部
  - ② グループ協議 . . . . .
  - ③ グループ協議の発表 . . . . . 各グループの発表者
- (5) 閉会行事
  - ① 諸連絡 . . . . . 総務・調査部
  - ② 閉会の言葉 . . . . . 副会長

全公教調査結果報告の様子



研究協議会の様子



末富教授と吉原会長



### 日本大学文理学部教授 末富 芳 氏の講演から

- ・保護者や地域の方の力を借りて、子供たちのために働き方改革と学校改革を実現する。という発想に共感を得ました。
- ・教師のウェルビーイングを実現するために、「必要なのは、『働き方改革』ではなく、『学校改革』」だという言葉が心に残りました。
- ・教職員として働きがい、やりがい、生きがいを感じてきた世代なので、現在の若者の状況や社会の変化をきちんと捉えて働き方改革に着手したいと思います。
- ・若い教師のため、教師になりたい人のために、未来の子どもたちのために我々も努力していきたいと思います。
- ・教員の成り手が増える学校現場を意識します。
- ・このように積極的に活動なさっていることに感銘を受けました。私たち教師、まして子どもたちにとって幸せな学校にしていきたいと改めて思いました。活動を応援していきたいです。
- ・今の現場の課題解決についての流れ、方向性がわかり、大変参考になりました。教師の幸せの実現のために力を注ぎたいと思います。
- ・末富先生のお話を聞いて、勇気付けられました。定数改善は本当に肝だと思えます。

## 【研究協議 報告－1】



- 教員不足が重要な課題－児童・生徒への対応ができない状況も生じる。
- 教員採用試験の倍率が低下している現状
- 教員の成り手が減少している事ついて－教員養成系大学でも教員養成に苦慮されている。
- 若手の教員育成に力を入れているが、厳しい状況もある。
- ハラスメントにより教頭の休職もある。
- 学校運営協議会－「学校は、何をしてくれるのか？」と言われる苦しい状況。
- 実習生へのマイナス的な言葉かけをしてしまう。
- 教員のマイナス的な言葉「自分の子どもは、教員をさせない。」
- 教員の前向きな言葉「日々ドラマ」

## 【研究協議 報告－2】

- 人手不足－様々な工夫をしているが、改善が図られないこともある。
- 教員不足により管理職も苦勞している。
- 教員定数は満たしているが、加配が0という現状もある。
- 育休、産休代替が見つからず、欠員が出ることの懸念
- 欠員の補充を教頭が探すことへの負担感、ストレス
- 新年度を迎えられる春は、期待と楽しみを抱いて迎えてきたが、再任用者の突然のキャンセルにより期待や楽しみが半減した。
- 人事に関わる仕事に就いた経験の中で、若い教員からの辞表を受けたことがあった。その中に特別支援教育に関わる要因もあった。末富先生にお願いですが、大学においても特別支援教育の授業をすすめていただきたいと思います。



## 【研究協議 報告－3】

- 人手不足のことが話題となった。
- ベテラン教師と若手教師との担任編制－中堅教師がいない。また、中堅教師のみの担任編制。
- 若手教員の育成にどのように取り組むかが課題である。
- 働き方改革の視点での協議－遅くまで学校に残っている教員は、そのことがステータスになっているのではないか。見地を広げる研修に取り組むことや楽しみを見つけることが必要ではないのか。
- コロナ禍で、楽しい経験ができなかった若手教員もいるのではないかと。
- 教師の魅力を広めることも重要である。
- 部活動の改革がすすめられているが地域により温度差があるのではないかと。

### 【研究協議会の感想】

- 他地域の教頭先生と交流ができ、色々な実態を知ることができてよかったです。
- それぞれの県の悩みは共通していること、またはそれぞれの特徴があることを知りました。このような機会は大変貴重だと思います。ありがとうございました。
- 他県の教頭先生方と意見交換して、異なる仕組みの中でも同じように苦しい現状を抱え、奮闘していることがわかり、ともにがんばりたいという思いを強くしました。
- 他の地域の状況を知ることができました。また、地域によって職場の環境や人員配置等の格差があることを感じました。教員不足は大きな課題であると改めて思いました。

## ■要請活動

事前に要請活動計画を立案していただき、全国要請推進部長会の翌日、7月7日（金）に議員会館事務所等を訪問して要請活動を行いました。

要請活動終了後、要請活動報告書を全公教事務局に提出していただきました。報告書に加えて要請活動の様子を写真でお送りいただきました。茨城県の要請活動には、全公教から吉原会長と松野副会長も参加させていただきました。

